

Daily Macro Economic Insights

企業物価指数(2026年2月速報)

2026年3月12日

輸出入物価は前年比で伸びを加速

国内企業物価指数は前月比-0.1%、前年比は+2.0%、輸出入価格指数は上昇トレンドが継続

日本銀行から2月の企業物価指数が公表された。結果をみると、国内企業物価指数が前月比-0.1%(前年比+2.0%)、輸出物価指数は、円ベースで前月比+1.2%(前年比+9.5%)、契約通貨ベースで同+1.5%、輸入物価指数は、円ベースで前月比+0.1%(前年比+2.8%)、契約通貨ベースで同+0.9%となった。輸出入物価指数は前年比で上昇傾向を強めている。

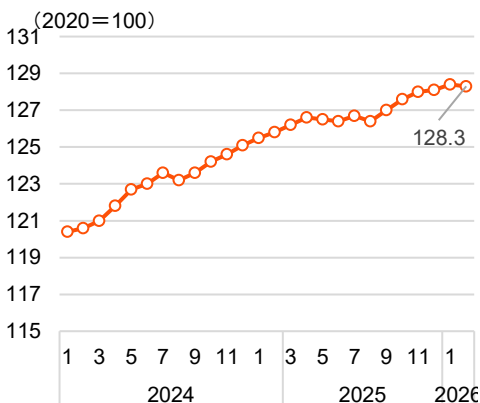
国内企業物価指数につき前月比で大きく上昇した品目をみると、石油・石炭製品(同+0.18%ポイント)、金属製品(同+0.05%ポイント)といった品目の伸びが大きい。逆に電力・都市ガス・水道(同-0.36%ポイント)といった品目は下落している。図表2は企業物価指数の推移をみているが、昨年9月以降は緩やかな上昇基調にある。輸出入物価指数(図表3、4)は円ベース・契約通貨ベースともに下げ止まり、足元では引き続き伸びを強めている。

図表1: 企業物価指数の概要

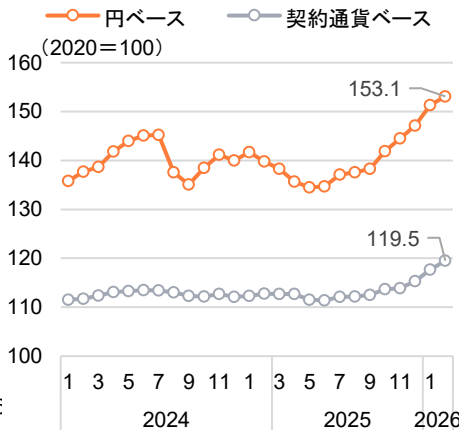
(単位: %)

	国内企業物価指数		輸出物価指数				輸入物価指数				
			円ベース		契約通貨ベース		円ベース		契約通貨ベース		
			前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	
2024年	7	0.5	3.3	0.1	10.9	-0.1	3.1	0.4	10.6	0.2	1.3
	8	-0.3	2.7	-5.2	3.1	-0.4	2.3	-6.2	2.3	-0.4	1.4
	9	0.3	3.2	-1.8	-0.7	-0.6	0.9	-2.9	-2.7	-1.4	-0.6
	10	0.5	3.8	2.5	1.2	-0.1	0.9	2.9	-2.5	-0.3	-2.5
	11	0.3	3.9	1.9	2.9	0.4	1.4	1.6	-1.4	-0.4	-3.0
	12	0.4	4.1	-0.8	4.8	-0.5	1.1	-0.7	1.2	-0.6	-3.3
2025年	1	0.3	4.2	1.2	4.3	0.2	0.7	1.5	2.1	0.1	-2.6
	2	0.2	4.3	-1.3	1.5	0.4	1.0	-1.9	-1.2	0.3	-2.1
	3	0.3	4.3	-1.1	-0.3	-0.1	0.3	-1.6	-2.5	-0.2	-2.0
	4	0.3	3.9	-1.9	-4.3	0.0	-0.4	-2.9	-7.3	-0.6	-2.8
	5	-0.1	3.1	-0.9	-6.6	-1.1	-1.6	-1.0	-10.3	-1.2	-4.7
	6	-0.1	2.8	0.1	-7.2	-0.1	-1.9	-1.5	-12.0	-1.3	-5.7
	7	0.2	2.5	1.8	-5.6	0.6	-1.1	2.0	-10.6	0.7	-5.3
	8	-0.2	2.6	0.4	0.0	0.1	-0.7	0.4	-4.3	0.0	-4.9
	9	0.5	2.8	0.5	2.4	0.3	0.2	0.3	-1.2	0.0	-3.6
	10	0.5	2.7	2.6	2.5	1.1	1.3	2.4	-1.6	0.7	-2.6
	11	0.3	2.7	1.8	2.3	0.2	1.1	1.5	-1.7	-0.4	-2.6
	12	0.1	2.4	1.8	5.1	1.2	2.9	1.3	0.2	0.8	-1.3
2026年	1	0.2	2.3	2.9	6.8	2.1	4.8	2.0	0.7	1.4	0.0
	2	-0.1	2.0	1.2	9.5	1.5	5.9	0.1	2.8	0.9	0.6

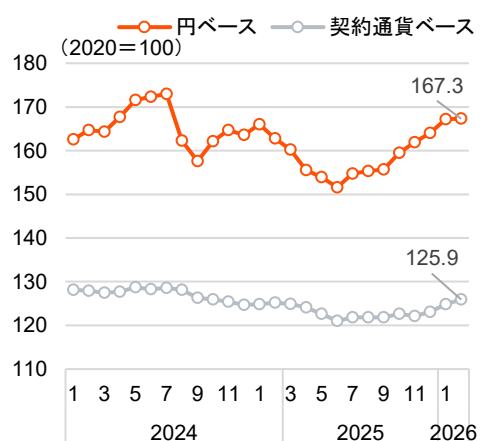
図表2: 国内企業物価指数の推移



図表3: 輸出物価指数の推移



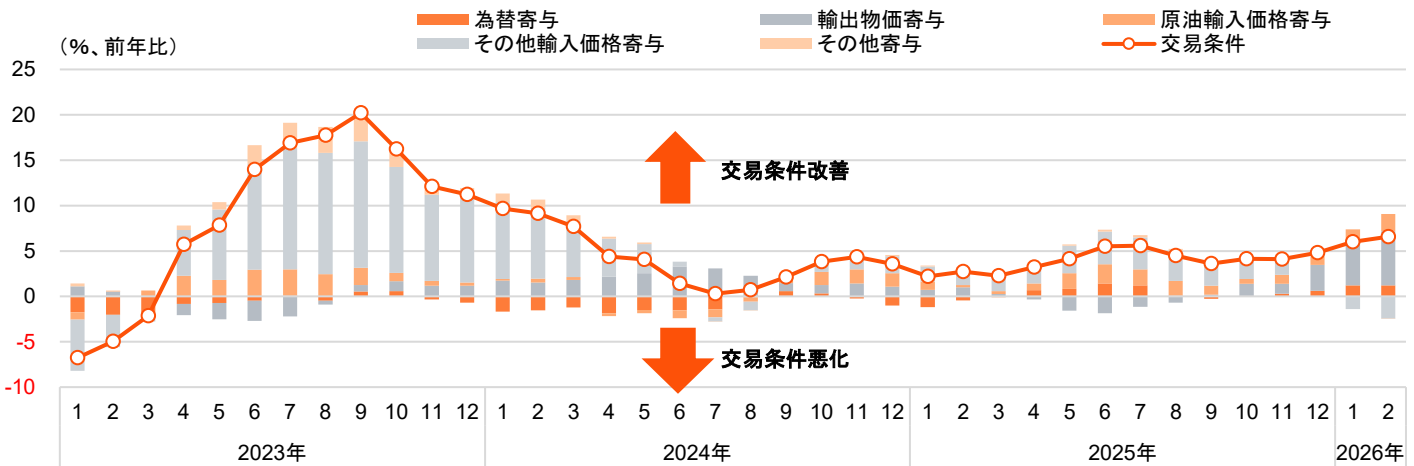
図表4: 輸入物価指数の推移



輸出価格上昇が引き続き交易条件改善の下支えに、為替の影響も強まるが影響は小さい

図表5は交易条件(輸出物価指数÷輸入物価指数)の前年比を折れ線で、交易条件に影響する輸出物価指数、輸入物価指数(いずれも契約通貨建て)、さらに為替レートの影響を寄与度の形で示している。交易条件は2023年4月に前年比プラスとなり、2024年7月に一旦前年比+0%程度となった。2026年2月の前年比は+6.6%と加速した。2月の交易条件変化の内訳をみると、輸出価格上昇の寄与が+5.9%ポイント、原油輸入価格の低下の寄与が+1.9%ポイントと交易条件改善に大きく寄与している。また、為替の寄与は+1.2%ポイントと4月以降、交易条件の改善に寄与している。なお、輸入物価指数前年比は契約通貨建てでみると前年比+0.6%、円建てでは同+2.8%となり、円建てでは12月以降3か月連続の上昇となった。契約通貨建てと円建ての輸入価格前年比の差分2.2%ポイントが円安による輸入物価の押し下げ分である。7月までは為替要因は円高が強まることで輸入物価の押し下げに寄与していたが、8月以降は円安の動きが強まることで輸入物価の上昇要因となっている。もっともその程度は2022年後半(20%程度)や2023年前半(3%から10%程度)と比べても大きいとは言えない。

図表5: 交易条件変化(前年比)と寄与度の推移



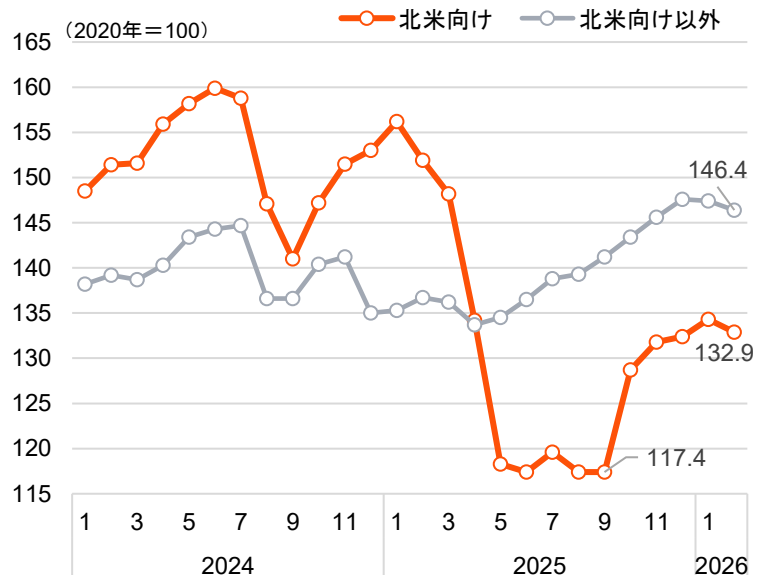
乗用車輸出価格(北米向け)はほぼ横ばい、中東情勢悪化の影響はネガティブ

企業物価指数では、乗用車の輸出価格に関して、北米向けと北米向け以外の指数を公表している。図表6はこの結果をまとめている。

図表をみると、2025年3月の乗用車輸出価格指数(北米向け)は148.2(前年比-2.2%)であったが、4月に入ると134.2(前年比-13.9%)と急落し、5月は118.3(同-25.22)と低下が進んだ。2026年2月は132.9(同-12.5%)となり、価格指数の減少率は拡大していない。2025年10月から12月において輸出価格は対前年比-13%程度であったが、1月の前年比は14%を超える下落となっている。4月以降の北米向け乗用車輸出価格の急落は、日本企業にとっては大きなダメージであったが、この動きは長期化することになりそうだ。3月のデータには中東情勢の影響が徐々に反映されるだろう。先行きの懸念材料である。

(PwC Intelligenceチーフエコノミスト、上席執行役員
片岡 剛士)

図表6: 乗用車(北米向け)、乗用車(北米向け以外)の輸出価格比較



注: 図表中の数値は円建て輸出価格指数である。

出所: 日本銀行「企業物価指数」より筆者作成。

片岡 剛士
チーフエコノミスト、上席執行役員
PwC Intelligence
PwCコンサルティング合同会社

伊藤 篤
シニアエコノミスト
PwC Intelligence
PwCコンサルティング合同会社

PwC Intelligence 統合知を提供するシンクタンク
<https://www.pwc.com/jp/ja/services/consulting/intelligence.html>

PwCコンサルティング合同会社

〒100-0004 東京都千代田区大手町1-2-1 Otemachi One タワー Tel: 03-6257-0700